

# 祝！日本遺産認定 「旅ブーム」

藤枝市・静岡市 日本初



日本初の「旅の大ブーム」の火付け役は、十返舎一九の滑稽本「東海道中膝栗毛」であり、歌川広重の描いた「東海道五十三次」の浮世絵であった。「怖いもの見たさ」そして美味しい「名物」に引き寄せられるのは人の世の常。日本の「ガイドブックの原典」とも言われる「浮世絵」「滑稽本」に惹かれ、自由な移動が制限される江戸時代でも人々は物見遊山の旅へいそいそと出かけて行った。弥次さん喜多さんの「旅の楽しさ」は今も駿州で体感できる。富士山を仰ぎ見ながら江戸時代の「ガイドブック（道中記）」を片手に「東海道五十三次」の「真ん中」、駿州を巡る旅に出よう。

## 03 滑稽本は駿府（静岡市）出身のお調子者が主役

また享和2年（1802年）から文化11年（1814年）に初刷りされた十返舎一九の滑稽本「東海道中膝栗毛」は、文章もさることながら挿絵が面白く、作者が自分の足と目で確かめたリアル感が読者の旅情を誘った。絵と文字、それはまさに江戸時代のマンガであるが、今やマンガは日本を代表するポップカルチャーとなっている。マンガのような「東海道中膝栗毛」を「ガイドブック」として旅に出ようと思立った江戸庶民達が「旅の大ブーム」を作ったのだ。物語は駿河国府中（静岡市葵区）出身の弥次郎兵衛（弥次さん）と江尻（静岡市清水区）出身の居候、喜多八（喜多さん）が、つまらぬ身の上に飽きて財産をふろしき包み一つにまとめ、江戸から厄落としの旅に出た道中、宿場毎に風景や人情話、その地の食べものなどがコミカルに描かれ、織り広げられる。その中で、東海道でも美しい富士山が見える駿州と呼ばれる「東海道五十三次」の「真ん中」が今回の舞台。ここは作者十返舎一九と「東海道中膝栗毛」の



## 01 「旅の大ブーム」の火付け役

日本初の「旅の大ブーム」は今からおよそ200年前の江戸時代の後期に起こった。「入り鉄砲に出女」の言葉で象徴されるように、武士や庶民の区別なく人々の自由な移動は制限されていた時代。神社仏閣を巡る信仰の旅や治療のための旅ならば許されていたことにかこつけ、人々は、やれ参詣だ、やれ湯治だと物見遊山の旅へ出かけるようになった。安穩な暮らしの中で、庶民は見知らぬ土地に思いを馳せ、噂で語られる珍しい食べ物や出来事に憧れた。これはいつの



東海道中膝栗毛 表紙（静岡市郷土博物館所蔵） 東海道 十八、五十二次 興津 清見かきせ 清見寺（静岡市東海道山皇美術館所蔵）



をこらえて立ち去るが、名物のとろろ汁は食べられず終いとなった。）しかし、これで江戸でも丸子宿の名物はとろろ汁と一躍評判が立ったらしい。広重も丸子宿の浮世絵に「名ぶつとろろ汁」と書き込んでいる。江戸時代と変わらぬ茅葺き屋根の丸子宿では弥次さん喜多さんは食べられなかったとろろ汁が旅人の舌を楽ませしてくれる。丸子宿の先には宇津ノ谷峠がある。この峠は平安時代の伊勢物語で暗く細い山道として描かれ、江戸時代には「葛の細道」と称されるようになっていた。昼でも薄暗く怖いイメージは歌舞伎の題材にもされ江戸庶民の興味的でもあった。「怖いもの見たさ」も人の世の常。江戸の人々も興味津々であったが、ハイキングコースとして整備された現代でも人気のコースであり、宇津ノ谷の怪談は今も語り継がれる。宇津ノ谷トンネルは、明治、大正、昭和、平成と時代の異なる4つのトンネルが並ぶ珍しいスポットだが、中でも明治のトンネルは、だれもいないはずのトンネルに人の声や笑い声が



丸子宿丁字屋 とろろ汁を楽しめる 宇津ノ谷峠 明治のトンネル 東海道五十三次之内 岡部（静岡市郷土博物館所蔵）

## 02 華の都パリの画家たちも浮世絵から日本への旅を夢見た

浮世絵は江戸時代を中心に流行した日本絵画の一つだが、時代の風俗を描き、美人画、役者絵、芝居絵、名所絵、春画とまさに大衆娯楽、大衆メディアであった。江戸時代の後期に葛飾北斎は「富嶽三十六景」を描き、東海道の道々から富士山が美しく見える景色、名所絵を残しているが、それが見えかけとなり、歌川広重が「東海道五十三次」を描いた。それまでには無かった大判サイズで木版が作られ、「まのあたり」にそこに行たらむこち（保永堂版の序文）と思わせるものであった。まさに「ガイドブックの原典」である。遠く海を渡った「東海道五十三次」を目にしたモネやゴッ



富嶽三十六景 駿河湾夕文海上（静岡市東海道山皇美術館所蔵） 由比本陣公園 東海道山皇美術館

## 04 今も昔も「旅の楽しみ」「庶民の楽しみ」は続く

東海道のまん中、駿州は、富士山静岡空港も近く、清水港もあり、東海道新幹線、東名高速道路が通り、空、海、陸全ての交通を使える交通の要所といえる地域となった。しかし、弥次さん喜多さんのような昔ながらの喜怒哀楽を楽しみたい現代の旅人が「旅の楽しみ」を発見できる場所である。江戸時代は旅人が川留めや峠越えで何日も要した地域だが、今の駿州には、「旅の楽しみ」を一度に味わえるコンパクトな回遊性も用意されている。今も、江戸時代の「ガイドブック（道中記）」に登場する美味しい名物味わい、「浮世絵」に描かれた絶景に心奪われ、宿場毎の人情話に時を忘れる面白い、江戸庶民と同じ気分ワクワクする旅が体験できる。



岡部宿大旅籠柏屋の弥次さん喜多さん 粟戸の染飯

## 日本遺産とは

地域の歴史的魅力や特色を通じて、日本の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産（Japan Heritage）」として認定する文化庁の制度です。ストーリーは、地域に点在する文化財や伝承、風習、歴史的な経緯などを繋いで構成し、同一のテーマのもとでパッケージ化することで、地域の魅力を総合的に発信し、活用する取組です。

ストーリーには、単独の市町村内で完結する「地域型」と、複数の市町村にまたがる「シリアル型」の2種類があり、制度が始まった平成27年度から令和2年度までに、104件のストーリーが日本遺産に登録されました。

## 藤枝市・静岡市（シリアル型）日本遺産認定について

藤枝市・静岡市（シリアル型）日本遺産では、日本初の「旅ブーム」の火付け役と言われる十返舎一九（静岡市出身）の滑稽本「東海道中膝栗毛」や歌川広重が描いた浮世絵「東海道五十三次」を切り口に、両市に点在する江戸時代の「東海道」に関連する文化遺産や伝承、風景などを繋ぎ、ひとつのストーリーとして地域の魅力をアピールしています。

江戸時代の多くの庶民が憧れた美しい絶景をはじめ、「東海道中膝栗毛」に登場する主人公・弥次さん喜多さんが味わった喜怒哀楽の旅が今もなお体感できる場所としてこの地域の魅力が評価され、令和2年度日本遺産として認定されました。

日本遺産に関する問い合わせ先

藤枝市街道・文化課 TEL 054-643-3036 FAX 054-643-3327

静岡市観光・MICE推進課 TEL 054-221-1310 FAX 054-221-1312



## ストーリーの構成文化財一覧表

文化財の名称	指定等の状況	文化財の所在地
蒲原宿	未指定史跡	静岡市
旧和泉屋（お休み処）	国登録有形文化財	静岡市
志田家住宅主屋	国登録有形文化財	静岡市
由比宿	未指定史跡	静岡市
静岡市東海道山皇美術館所蔵の浮世絵	未指定美術工芸品	静岡市
間の宿西倉沢	未指定史跡	静岡市
東海道名主の館（小池家住宅）	国登録有形文化財	静岡市
薩埵峠	静岡市指定名勝	静岡市
清見寺	国指定史跡名勝	静岡市
三保松原	世界文化遺産富士山構成資産 国指定名勝	静岡市
江尻宿名物道分羊羹	未指定民俗（生活文化）	静岡市
府中宿（駿府九十六ヶ町）	未指定史跡	静岡市
府中宿名物安倍川餅	未指定民俗（生活文化）	静岡市
丸子宿名物とろろ汁	未指定民俗（生活文化）	静岡市
丁字屋	未指定建造物	静岡市
廣龍寺	未指定建造物	静岡市
間の宿宇津ノ谷	未指定史跡	静岡市
十団子	未指定（生活文化）	静岡市・藤枝市
東海道宇津ノ谷峠越	国指定史跡	静岡市・藤枝市
明治宇津ノ谷隧道	国登録有形文化財	静岡市・藤枝市
葛の細道	藤枝市指定史跡	静岡市・藤枝市
坂下地藏堂	未指定建造物	藤枝市
薩埵石碑	藤枝市指定古文書	藤枝市
十石坂観音堂	藤枝市指定建造物	藤枝市
岡部宿大旅籠柏屋	国登録有形文化財	藤枝市
岡部宿本陣址	藤枝市指定史跡	藤枝市
東海道松並木（内谷地区）	藤枝市指定史跡	藤枝市
田中城 田中城本丸櫓（史跡田中城下屋敷）	藤枝市指定史跡 藤枝市指定建造物	藤枝市
大慶寺 久遠の松	未指定建造物 県指定天然記念物	藤枝市
陸波神社大祭の奉納踊り	藤枝市指定無形民俗	藤枝市
瀬戸の染飯	未指定民俗（生活文化）	藤枝市
東海道松並木（上青島地区）	藤枝市指定史跡	藤枝市